

(報告)「グローバル化と地域協働のための人材育成

—大学/シンクタンク・ネットワーク形成と若者の未来—

1 現状と問題点—アジアの時代、知のネットワーク化

新たな時代到来の息吹の中、経済的に成長するアジアで最も待たれているのは、国際秩序の中におけるアジア地域の再編・共同と、科学技術協力や大学間協働、アジアの「知のネットワーク化」である。21世紀の新たな国際秩序再編の時代、変容しつつあるグローバル化に適切に対応し、地域協働を視野に入れた人材育成は日本にとって急務である。

2 報告の内容

(1) 課題—いかに若手人材を育成し、知のネットワークを組織するか

アジアの知のネットワークをいかに組織化していくか、またそれを地域協働にむけ、いかに人材育成に活かしていくか。21世紀の次の10年間には、マルチなプロジェクト型のネットワーク形成が不可欠である。日本の大学を支える数多くの国公立私立大学で、世界、アジアとの共同、地域との協働を目指し、いかに世界と連携した魅力的な大学を作るかが問われている。

(2) 目的—アジアの連携と開かれたネットワーク化

目的は、次の3点である。①アジアの現状と課題を、分析検討し、課題解決に向け、日本の大学が、世界の大学、欧米やアジアの大学と切磋琢磨する。②知のレベルでも、経済レベルと同様、アジアと日本の大学が世界のトップ大学の3分の1以上を占める教育研究の実力を付ける。その時代はすでに到来しつつある。③連携は、バイではなくマルチな形で行う必要がある。欧米アジアその他の地域の大学が協力し知のレベルの横の連携を強化し緊密化を世界水準に高めていく。

(3) 社会連携の重要性—国際化、マルチレベル化、地域協働

- ①海外の諸大学との連携、市民組織との連携を基礎に開かれたネットワークを形成する。
- ②世界の大学・研究機関に学び、マルチレベルの相互連携を強化し若手人材を育成する。
- ③地域・社会との連携協働を強め、貧困、格差、社会的不公正に対する問題解決型、政策提言型の組織形成を提案することにより、メディアとも結び、日本の知の再編を強化する。